

2024/10/15 (火)

朝の礼拝

聖書 創世記 28 章 10-15 節 (旧約聖書 42 頁)

ヤコブはベエル・シェバをたって、ハラシムへと向かった。ある場所にさしかかったとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。彼はそこにあった石を取って頭の下に置き、その場所に身を横たえて眠り、夢を見た。すると、先端が天にまで達する階段が地に据えられていて、神の使いたちが昇り降りしていた。すると、主がそばに立って言われた。「私は主、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神である。今あなたが身を横たえているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は地の塵のようになって、西へ東へ、北へ南へと広がってゆく。そして地上のすべての氏族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。私はあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにしてもあなたを守り、この土地に連れ戻す。私はあなたに約束したことを果たすまで、決してあなたを見捨てない。」

天の使い

ヤコブにはエサウという双子の兄がいましたが、相続のことで兄の怒りを買ってしまいました。そこで母は密かにヤコブを叔父ラバンの下へ逃しました。しかし叔父の家まではおよそ 400 km の道のり、まだ少年のヤコブには過酷なひとり旅です。

兄の怒りに怯え、もう二度と両親に会えないかもしれない。荒れ野には冷たい風、ジャッカルやヘビの気配、沈黙の闇が広がり、寝つかれなかったことでしょう。やがて疲れ切ったヤコブは夢を見ます。天に達するほどの階段を天の使いが昇り降りしている夢でした。

「すると、主がそばに立って」とありました。家族が遠くに感じる時ほど、実は自分を守る存在に気づく時なのかもしれません。そしてヤコブは「私はあなたと共にいて」「決してあなたを見捨てない」と語りかける声を聞いたのでした。

つまり天の使いが階段を昇り降りしていたというのは、ひとりぼっこのヤコブの嘆きが天に届いていたということです。英和の礼拝堂正面の頭上には小さな十字架があります。光で十字架は天使のシルエットを浮かべます。イエスの名による祈りは、天に届いているのです。

(しばらく黙想しましょう)

慈しみ深い主よ、わたしたちは不安や恐れにある時、どう祈ったらいいのかわからず、嘆き、ため息を重ね、不安なうちに眠ってしまいます。しかしあなたはわたしたちの祈りを聞き、わたしたちが願う前から、願う以上の必要なものをご存じです。どうか今、ひと時でも早く平和を願い求める人々に身体と心を休める平安な日々を与えてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン